



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信(No.91)uniwish18号 (2015年9月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



ネパール大地震緊急募金 第27報

ネパール大地震から4カ月 モンスーンによる新たな危機 未だ280万人に人道支援が必要

【2015年8月20日 カトマンズ (ネパール) 発】

ネパールで4月25日と5月12日に発生した大地震と、380回に上る余震は、多くの命を奪い、人々の生活を破壊しました。

最初の大地震発生から4カ月近くが経ち、8月20日時点で確認された犠牲者は8,959人(うち28%が子ども)、負傷者は2万2,322人にのぼります。現在、1万1,000世帯の5万9,433人が、104カ所の避難所に身を寄せており、地震から約4カ月たった現在も、280万人が人道支援を必要としています。



© UNICEF Nepal/2015

MR (はしか・風疹混合) ワクチンの予防接種を受ける子ども

さらなる危機—洪水、地滑り、コレラ

モンスーンによる雨が、子どもたちをさらなる危機に晒しています。特に、避難している人々にとって、地滑りや洪水、水に起因した病気が脅威です。激しい雨によって、道路が閉鎖されるなどの影響が出ており、地滑りに対する救命活動や、被災地域への支援物資の輸送が妨げられています。

また、カトマンズではコレラの感染が複数報告されており、8月18日時点、西カトマンズで31件の感染が確認されています。ユニセフは、ネパール政府や保健セクターとともに、被災地や避難所などで水質チェックや衛生促進を実施するため、人員を動員し、コミュニティのボランティア保健員への研修を行っています。

また、8月15日から1週間、地震で最も甚大な被害を受けた14の郡で、生後6カ月から5歳までの子ども60万人を対象にしたはしか予防接種キャンペーンを実施。このうち5つの郡では、経口コレラワクチンの予防接種も追加で実施しました。

ユニセフの復興活動

地震発生直後の緊急支援から、復興支援へと推移した現在、中長期的で持続的な復興プログラムの実施に焦点が置かれています。多くの人が未だに支援を必要としているなか、ユニセフは被災した子どもたちに様々な支援を届けています。

- ① 子ども14万7,300人が教育を続けられるよう、一時的な学習センターを設置
- ② 子ども40万6,181人に下痢から命を守るための支援を提供
- ③ 子ども70万3,699人に水の支援を提供
- ④ 子ども31万7,110人に栄養補助食を提供



© UNICEF Nepal/2015

学校を訪問し、コレラに関する知識の普及と、水質チェックについて啓発をするコミュニティのボランティア保健員

ユニセフでは、ネパール大地震の影響を受けている子どもたちへの支援活動を拡大・継続するための資金として、国際社会に対し1億2,000万米ドルの資金を要請していますが、資金の達成率は6割にとどまっています。ネパールの子子どもたちが明るい未来を築き、将来のネパールを担っていくよう、ユニセフは引き続き、緊急支援を続けて参ります。

**エボラ出血熱 流行3カ国
学校再開後、校内感染はゼロ
感染予防ガイドラインの成果**

【2015年8月12日 コナクリ(ギニア)／フリータウン(シエラレオネ)／モンロビア(リベリア)発】

エボラ出血熱の影響を受けている西アフリカのギニア、リベリア、シエラレオネで夏休みが開始されました。

学校におけるエボラ感染予防対策の導入後、これまでに校内感染の報告が一件もないことから、その成果が認められつつあります。

ユニセフ(国連児童基金)とパートナー団体によって開発されたこの学校におけるエボラ感染予防ガイドラインには、毎朝の登校時に学校の校門で検温を実施し、手洗い場を設けることが示されています。その他にも、何百万個もの石けんや塩素の配布、何万人もの教師や学校運営者を対象にした研修、そして、心理社会的サポートの提供も盛り込まれています。

このガイドラインを策定し、3カ国で実施するまでには、数カ月の準備期間を要しました。

子どもたちがエボラ予防に貢献

「エボラから学校の安全を守るために、可能な限り最大の努力をつぎ込みましたが、それが報われたようです」と、ユニセフシエラレオネ事務所代表のジョフ・ウィフィンが話します。

「子どもたちは学校で、自分自身と周りの人たちをエボラから守る方法を学び、それを両親やコミュニティの人々に伝えました。これが、エボラとの闘いに大きな役割を果たしたのです」

エボラの流行が最も深刻であったこれら3カ国では、もともとの教育水準が低かったことに加え、昨年7月から今年の初めにかけて学校が閉鎖されていたことにより、およそ500万人の子どもたちが、数カ月間にわたって教育を受けることができませんでした。エボラ流行前の小学校就学率は、ギニアでは58%、リベリアでは34%、シエラレオネでは74%でした

学校再開後、校内感染はゼロ

これらの3カ国では、エボラの影響によって昨年夏以降に閉鎖されていた学校が今年初めに再開されるにあたり、エボラ感染予防のための厳しいガイドラインが設けられました。ガイドラインの実施により、学校における生徒や教師の感染は、これまでに一件も報告されていません。リベリアでは今年6月に生徒一人が死亡、7月に別の学校の生徒一人の感染が報告されたことを受け、この2校の学校の消毒を実施しました。

エボラ対応と共に、未来を見据えた支援を

ユニセフはエボラ感染予防ガイドラインが夏休み終了後も確実に実施されるように取り組む一方で、就学率の低さや質の高い教師の不足、校内における安全な水のアクセスなどの課題に対処することで、より回復力の高い教育システム作りも支援しています。安全な水を利用できる小学校は、ギニアではたった33%、リベリアでは45%、シエラレオネでは約40%に留まっています。適切な衛生を保つための習慣や基準は、子どもたちを他の病気から守るためにも重要となります。

エボラ予防対策の成功を受け、ギニアの隣国であるギニアビサウでも、同様のガイドラインが予防策として実施され始めました。ギニアビサウでは、ギニアでエボラ感染者と接触した人々が、国境を越えて入国したとみられていますが、その行方は特定できていません。

ユニセフ・リベリア事務所代表のシェリドン・イェットは、「エボラ感染ゼロの達成に向けて闘う今だからこそ、私たちは、未来をも見据えていかなければなりません。学校における水と衛生の基本的なインフラを整えるためには、大規模な投資が必要なのです」と述べました。

【資料提供】日本ユニセフ協会



○ UNICEF/NYHQ2015-0768/Bindra
エボラの感染拡大のリスクを最小限にするため、国中の学校の校門で体温検査が行われている。非接触型体温計で体温を測る少年。(シエラレオネ)



○ UNICEF/NYHQ2015-0552/Irwin
学校に入る前に手洗いをする児童たち。(リベリア)



- 5月31日（日） 第31回鹿島ガタリンピック ネパール大地震緊急募金
(鹿島市七浦海浜スポーツ公園)
- 6月9日（火） ユニセフボランティア講座Ⅰ (佐賀市立図書館)
①ボランティアについて考えよう ②ユニセフってなあに？
- 6月10日（水） 鳥栖市立田代小学校ネパール大地震募金贈呈式 (鳥栖市立田代小学校)
- 6月13日（土） 三陽中学校高等学校出前授業 (福岡市中村学園三陽中学校高等学校)
「世界の子どもたちは、今。～世界の子どもたちに平和と希望を～」
- 6月23日（火） コープさが第25回通常総代会：東ティモール指定募金贈呈式 (佐賀市アバンセ)
- 6月30日（火） ユニセフボランティア講座Ⅱ (佐賀市立図書館)
①水とトイレと子どもの命 ②わたしは だあれ？
- 7月9日（木） 長崎市立小江原中学校3年生出前授業 (長崎市立小江原中学校)
「世界の子どもたちとユニセフの活動」
- 7月11日（土） ユニセフボランティア講座Ⅲ (佐賀市アバンセ)
ユニセフ講演会 講師：久木田 純 氏
- 7月14日（火） 佐賀キワニスクラブ ユニセフ出前講座 (グランデはがくれ)
「世界の子どもたちとユニセフの活動」
- 7月28日（火） コープさが生活協同組合募金贈呈式
「バヌアツ大型サイクロン緊急募金」に432,124円、
「ネパール大地震緊急募金」に782,124円、
合計1,214,248円のご支援がありました。
- 7月28日（火） ユニセフボランティア講座Ⅳ (佐賀市立図書館)
①すべての子どもに教育を
②ワークショップ「インドの紙袋づくり」
③わたしにできること
- 7月30日（木） 佐賀生協連ピースアクション2015 ユニセフパネル展&チャリティーミニバザー (佐賀市アバンセ)
- 8月4日（火） ユニセフサマースクール「お水の教室」 (佐賀市大和町水ものがたり館)
講師：野田 岳仁 氏（立命館大学 政策科学部助教 NPO法人Waterscape代表）
- 8月6日（木）～9日（日） 第24回佐賀市平和展～語り継ごう、平和の尊さ～ (佐賀市立図書館)
地雷レプリカ展・「紛争のなかを生き抜く子どもたち」パネル展





活動詳細



ユニセフ講演会

7月11日（土） ユニセフボランティア講座Ⅲ （佐賀市アバンセ）

「国連職員の人生計画～ユニセフでの30年と世界の子どもたち～」

ワークショップ「ユニセフ職員になろう ～わたしはマラデビ～」

講師：久木田 純 氏

（前unicefカザフスタン事務所長 国連フォーマル共同代表 神戸大学大学院非常勤講師）

30年にわたってユニセフの現場で子どもたちの支援に携わってこられた久木田純氏をお招きし、国連職員としてのあゆみ、世界の子どもたちの様子、ユニセフの支援活動など、エピソードをまじえてお話いただきました。

その後、「子どもの権利条約」をもとにした支援のあり方について「わたしはマラデビ」のワークショップをしました。6つのグループから発表があり、総括として久木田氏から「どのグループのプロジェクトも構造的によく考えられていて採用です！」との評価をいただき、楽しい学びができました。



【参加者の声】（アンケートより）

- 目標を持って人生を送っていくことの大切さを改めて感じさせられました。ユニセフが大きな働きをしていることを知り、とても良い時間を過ごせました。
- 大学時代、社会人時代、いつ何をしていくか、計画を立てることの必要性を強く感じました。具体的なエピソードなどもあり、とても勉強になりました。
- 人生の目標・目的を達成されていらっしゃる先生の話聞いて、私も私の人生のテーマ「世界の子どもたちの平和に役立つ私でいること」という大きな目標を達成実現していく勇気をいただきました。ありがとうございました。
- 子どもの権利条約があることは知っていたが、条文の中身は初めて知った。
- 非常に面白かったです。難しすぎず楽しく参加できる内容が良かったと思います。
- 支援を必要としている子どものことを考えているようで考えていなかったなと思いました。同じテーマのことについて他のグループの発表を聞くなかで、自分の考えの良いと思うところ、足りていないと思うところがあって、とても勉強になりました。楽しかったです。
- 「わたしは9歳？」と「？」がついていてなぜかなと思いました。自分の年がはっきり分からないのはどうしてだろうと思いました。子どもの権利条約の7条に「名前・国籍をもつ権利」がありますが、これってあたり前なのにどうしてこんな条文があるのかと思いました。みんなと色々話し合って発表できて良かったです。
- 同じテーマでも色々な気づきがあると思った。一つ改善されたらそれにつられて良くなることもいっぱいあるのではないかと思った。楽しかった。



【佐賀新聞より 2015年（平成27年）7月17日（金） オピニオン】

ユニセフ職員の仕事、身近に

佐賀市 吉原麻里（31歳）

7月11日にアバンセで行われたユニセフ講演会に参加しました。講師は30年間にわたりユニセフで仕事をしてきた久木田純さんでした。

久木田さんは、幼いころから自分の存在意義を問い続け「自分が成長し、かつ共存共栄な世界」を目指して人生計画を立て、国連職員を目指したそうです。その人生計画は100歳まで続き、今もなお更新を続けています。

「世界中の子どもみんなに、満足の食事と教育があれば貧富の差は無くなるはずだ。」という信念でユニセフを選び、アフリカから極寒の地まで、あらゆる地に派遣されたそうです。大変そうなのですが「たくさんのチャレンジを楽しんでいたら30年が過ぎたような感じ」と本当に生き生きとしておられ、うらやましくなりました。

ユニセフの仕事は子どもの成長に合わせて取り組みを行う「ライフサイクルアプローチ」です。それぞれの時期にどんなことが起きて何をすべきか、を常に研究し、成功例を世界中に普及させています。「子どもの権利条約」にのっとり、最も困難な状況にある子ども達に焦点をあて、問題解決法を検討していきます。

ユニセフの重要な役割の一つに「政策提言」があります。東ティモールで大統領から「武装集団間の争いをやめさせてくれ」と相談されて、親善大使のジャッキー・チェンを駆り出し、見事に治安を改善させたエピソードは感動的でした。

国連職員の人生計画の紹介でしたが、違う職種でもまねしたい点は多く、まずは今までの自分史を振り返り、今後の人生計画を立ててみようと思います。また、今まで遠い存在だった「国連のユニセフ職員」の熱意や工夫や苦労が実感としてわかり、これからの支援のモチベーションにつながりました。

ユニセフサマースクール

8月4日（火）（さが水ものがたり館 佐賀市大和町）

「お水の教室」

講師：野田岳仁 氏（立命館大学政策科学部助教 NPO法人Waterscape代表）

豊かな水資源に恵まれた佐賀。身近にある水について理解を深め、水の大切さを感じてもらおうと野田岳仁氏をお迎えして「お水の教室」を開催しました。小学校高学年を中心とした子どもたち29人と保護者21人の参加がありました。

①地球の水のはなし

②マリ共和国と日本の水事情

③泥水のろ過実験

④カードゲーム：水問題を解決するために私たちにできること



子どもたちからは「毎日何も考えずにじゃぶじゃぶ水を使っていた。お風呂の水も洗濯や庭の水やりに使いたい（小4）」「今日も何も考えずにプールに行ったけど、水の量なんて考えたこともなかった。恵まれているのだと感じた（小5）」「マリの洗濯の様子にびっくりした。汚い水を大切に使っていて、自分が恥ずかしくなった。家に帰って自由研究にして学校で発表しようと思う（小6）」等、色々な声が聞かれ「お水の教室」の意義を感じ取ってくれていたようでした。



ユニセフって なあに？



ユニセフの活動

ユニセフは世界の子どもたちが生存し健やかに成長できるよう、他の政府機関や各国政府、NGOなどと協力しながら活動を行っています。

— ユニセフの5つの特に重要な分野と緊急支援 —

今回は「水と衛生（水）」についてご紹介します。

2. 水と衛生（水）

子どもたちが生きていく上で、水と衛生は大きな問題です。汚水や不衛生な環境は感染症を引き起こします。幼い子どもたちのなかには、下痢などで命を落としてしまうことも少なくありません。

ユニセフは、より多くの子どもたちに清潔な水を届けられるよう井戸などの給水設備を作ったり、衛生的な生活が送れるようトイレを設置したり、学校教育や保健所を通じて住民に衛生習慣を広めるといった活動もすすめています。



© UNICEF/NYHQ2000-0578/Noorani

2015 年時点、世界では・・・
6億6,300万人が、改善された水源を利用できていません。

（改善された水源とは、外部からの汚染、特に人や動物の排泄物から十分に保護される構造を備えている水源・給水設備）

安全な水を届け、命を守るために

手押しポンプ付の深井戸の設置



地下深くに流れる清潔な水を手押しポンプを使って汲み上げます。

雨水貯水タンクの設置



地下水が汚染されている地域では雨季に降った雨水を清潔な状態で貯水するタンクを設置しています。

浄水場の設置・修復



都市部などでは、浄水場を整備し、安全な水を水道から使えるようにしています。

手洗いの促進



病気を防ぐためには、手洗いが重要。学校などで石けんを使った正しい手洗いを普及しています。

飲料水の浄化



集落や家庭単位で水を安全に塩素消毒できる仕組みを作ったり、浄水フィルターを配布したりしています。

給水車の派遣



災害等の緊急時には、給水トラックで難民キャンプ等に水を届けています。



ご支援 ありがとうございます

ようどう館大和校様 鳥栖市立田代小学校様 ボーイスカウト有田第一団様 佐賀友の会様
和みの会様 佐賀リハビリテーション病院様 国際ソロプチミスト佐賀西部様
ユープさが生活協同組合様 ユニセフを支援する会母子草様

株式会社ヨネザワ南佐賀店様 佐賀市国際交流協会様 大塚製薬佐賀工場様 佐賀新聞社様
グランデはがくれ様 (有)イー・ニーズ様 佐賀大学秘書室様 副島病院様
佐賀市民活動プラザ様 新栄公民館様 高齢・障害・求職者雇用支援機構様
うめづ歯科・小児歯科医院様 本庄公民館様 佐賀大学スーパーネット様 武井電機様
佐賀市社会福祉協議会様 佐賀県国際交流プラザ様 佐賀新聞総務局様
ヘルスランチあららぎ様 おうちカフェどこふく風?様 佐賀市立図書館様
佐賀新聞販売局様 佐賀市健康づくり課様 佐賀玉屋物流係様 芦刈観瀾校生徒会様
城北中学校人権委員会様 佐賀商業高等学校様 西部中学校様 キリンビバレッジ株式会社様
さが水ものがたり館様

(2015年5月27日～2015年8月31日)

☆ いろいろな形でのご支援・ご協力で心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



これからの予定

- 9月16日(水) ドリームパーク出前授業「ボランティア」(千代田東部小学校 ゆめ組)
- 9月16日(水) 佐賀県立唐津東中学校 職場体験学習受入れ
～18日(金)
- 9月16日(水) ユニセフ写真展 (佐賀市立図書館 2階ロビーギャラリー)
～ 「長谷部誠選手が見た、感じた『レジリエンス』」
23日(水) 「1L for 10L」パネル展同時開催
- ※詳細はチラシをご覧ください。
- 9月30日(水) ドリームパーク出前授業「ボランティア」(千代田東部小学校 ほし組)
- 10月18日(日) 2015さが国際フェスタ 「Rwanda day」(佐賀商工ビル1F 国際交流プラザ)
講師 永遠瑠マリールイズさん(ルワンダの教育を考える会 理事長)
①「ルワンダ料理教室」
②講演「ルワンダの内戦から学んだ命の尊さ、教育・平和の大切さ」
※詳細はチラシをご覧ください。
- 10月18日(日) 2015さが国際フェスタ ユニセフ写真展 (佐賀商工ビル1F 通路)
～25日(日) 「アフリカに必要なもの」～アグネス・チャン大使が見たナイジェリア～
※詳細はチラシをご覧ください。
- 10月19日(月) 永遠瑠マリールイズさん講演会「生きること、学ぶこと」(佐賀市立諸富南小学校)



の仲間たち!

小城市立芦刈観瀾校生徒会

～被災地への思いをかたちに～



わたしたち、ボランティア委員会は、委員長の2名と、各クラス2名の14名で構成されています。ペットボトルキャップ集めや老人ホームの訪問なども行っています。ユニセフの募金活動では、全校生徒に募金の意図を伝えるために、まずわたしたちが本やインターネットなど調べた際、世界各国で問題を解決するための糧となっていることを勉強しました。お金を集めるのはとても大変だけど、募金にはちゃんと目的があるのでとてもやりがいがありました。

また、東日本大震災の方々を元気づけるためのモザイクアートを制作しました。この取り組みから学校全体の一体感のようなものを感じることができたように思います。わたしたちの学校は小中一貫校ですが、小学生と中学生の生活スタイルが違うため、小中の交流があまりありませんでした。そこで、この制作を小学校の児童会と協力して行うことができ小さな力が集まれば、大きな力にかわることを実感することができたのです。

ユニセフでのボランティアを通して、将来は人の役に立つ仕事に就き、そこで生徒会役員としての経験を活かしていきたいと思うようになりました。この経験をここで終わらせることなく、活かさなければ意味がないと思うからです。

(生徒会長：辻龍汰、副会長：岩崎奈月、ボランティア委員長：古川龍葵、古賀京香)



(宮城県気仙沼復興屋台村
きずな広場に飾られた七夕飾り
協力：神奈川県ユニセフ協会)



(芦刈観瀾校からのお手紙が、岩手県大船渡市立第一中学校に岩手県ユニセフ協会事務局長から手渡されました) 協力：岩手県ユニセフ協会



(芦刈観瀾校からのモザイクアートを広げる第一中学校の生徒たち)

協力：岩手県ユニセフ協会

芦刈観瀾校生徒会本部は、生徒会長、副会長とボランティア委員長2名の計4名で構成されています。ユニセフとの出会いは、昨年5月にユニセフ募金活動に取り組んだときでした。募金活動を活性化するため、ユニセフのホームページで「インド女子教育」指定募金の取組みを知り、ポスターやパワーポイントを作成して、全校生徒に呼びかけました。募金贈呈式の際には、富崎さんに来校していただき、本部の生徒4名により深い内容を話してもらうことができました。それを聞く生徒達のまなざしは真剣で、実際に募金を渡せたことで役に立てたという達成感も感じられました。今年3月には、ユニセフ主催の「3. 11から4年～わたしが見た被災地の今～」にボランティア委員長の2名が参加し、「復興が進んだといっても、まだ支援を必要としている人が多く、3月11日だけが報道などで取り扱われているようで、風化されるのがとても残念だ。」という現地の人たちの声を聞き、3月以外にも東日本大震災について考える取り組みを年間活動計画の中に取り入れることにしました。佐賀県ユニセフ協会を通して、児童生徒が願いを込めて書いた短冊を気仙沼の七夕祭りに送ったり、小学1年生から中学3年生まで各クラスで作成した絵をつなぎ合わせて一つの大きな「モザイクアート」を作成し、岩手県大船渡市立第一中学校に送付したりすることができました。

ユニセフのイベントに生徒たちが参加したことが、その後の活動の原動力になったと強く感じました。最後に世界の子どもたちへ“Pay It Forward”のメッセージを送りたいです。だれかを思いやる気持ちが、どんどん連鎖していき、困難なことがあっても、周りの人を笑顔にする気持ちを忘れないでいることが、自分を笑顔にすることにつながると思います。(生徒会担当：内田聖子)

取材：高原陽子